

# 一 般 質 問

Q 災害時の課題について



前 崎 議 員

一、今回の北海道胆振東部地震での対応、反省点について、お聞かせ願います。  
また、高齢者、要介護者に配慮された点、計画停電に対する考えについても伺います。

A 自助の周知を図りたい

町 長 関 次 雄

一、当町において地震による被害がなかったこと、停電にもかかわらず上下水道が機能したことには安堵しているが、長時間の停電は想定しておらず対応に苦慮した。  
防災無線・広報車で情報伝達を行い、独居高齢者、要介護者世帯については、訪問や電話で安否、被害の確認を行い、一部世帯では、発電機で対応した。  
観光交流センターのトイレが使用できなくなり、食材供給施設の利用を促した。  
停電からいち早く復旧した、ゆったりかんでの入浴サービスも高齢者を対象に計画した。  
計画停電については、産業に及ぼす影響も考えられることから、回避に向け、町を挙げて節電するという意識の高揚を図ることが大事だと思っている。  
なるべく多くの災害事案を想定し、機材や非常食を配備すること、冬期間の場合、集会所に暖をとるために、収容することも考えられるし、正確な情報を伝えることも大切である。  
災害対応には、住民の防災意識が必要不可欠で、自助・共助・公助を理解いただき、まず、自助の周知を図ってまいりたい。

Q 一、アライグマの駆除体制の確立を  
二、特別支援教育の充実と支援員の増員を  
三、旧埋文資料館の解体を



板 垣 議 員

一、アライグマの駆除対策は、なかなか進んでいないのが現状で、以前の質問で箱罾の増設や有資格者の養成・駆除について農協との協議を進めると答弁したがどの様に取進めてきたか。更に箱罾を増やし農業者等へ貸出し駆除体制を確立する考えはないか伺う。  
二、本町の特別支援教育の現状について、幼・小・中学校への支援員の配置について現状はどのようになっているか。また、町教委として人員の配置・増員及び学習活動等の支援についてどの様な教育活動を取り進めるか見解を伺う。  
三、旧埋文資料館は館内に収蔵している各資料は旧ウニ種苗施設に移動保存しているが残った建物についてかなり老朽化が進んでおり、周辺の環境整備面や景観から、解体も含めどうするか考えについて伺う。

A 一、関係団体と連携し駆除体制を敷く  
三、擦文資料を保存し、建物は解体する

町 長 関 次 雄

一、アライグマ駆除については農協も自己所有による購入補助金を検討しており、町としても南留萌地域の駆除に1市2町と農協との連携による補助金等を検討したい。また、更なる有資格者確保のため、資格取得講習会を開催するなどJ Aとしっかりと協議をし、解決策をきちんと構築したい。  
三、擦文文化の貴重な遺産である「焼失住居跡」や復元「竪穴住居」を残し、他の建物部分については解体する考えである。解体・保存については早速新年度に向け制度を活用し取り進めたい。

A 一、支援員の増員増強で制度確立する

教 育 長 照 井 廣 章

二、小平町特別支援教育支援員設置要綱に基づき配置を希望する幼稚園長・小学校長からの申請により配置しており、特に幼稚園においては学校と違い1園1人にこだわらず複数名の配置が場合にはそのように進めて参りたいと考えている。幼小中の連携については、幼児期から中学校卒業までの一貫した支援を行うため「子育て支援ファイル」を活用し、町関係部局や関係機関との連携を図り、すべての子供に対しインクルーシブ教育の視点を大切にした特別支援教育を進める。また、特別支援教育の推進について地域の連携協力を図るため小平町特別支援連携協議会と連携し、本町の特別支援教育を進めて参りたい。  
また、支援員の増員増強については制度を確立し、推進したい。